

# がん診療で よく出合う困りごとに 対応できる研修医になる!

症状・副作用・急変への対応や疼痛管理、  
患者・家族とのコミュニケーション

序 .....	大山 優	3 (1983)
Color Atlas .....		8 (1988)
執筆者一覧 .....		10 (1990)

## 第1章 がん診療のアウトライン

1. がん患者の診療の一般的な流れ ..... 大山 優 12 (1992)
  1. 受診までの代表的パターン 2. 診断と治療方針の決定 3. がんの治療方針
  4. 治療の経過とその後 5. 治療終了後の経過 6. 患者・家族の心情の変化
2. がん治療の基礎知識 ..... 大山 優 24 (2004)
  1. 外科的手術 2. 内視鏡治療 3. 化学療法 4. 放射線療法 5. 症状コントロール（支持療法、緩和ケア）

化学療法の基礎知識：1. 細胞障害性抗がん剤（殺細胞薬） 2. ホルモン療法薬 3. 分子標的薬 4. 免疫療法
3. 抗がん剤に関連する副作用  
その本質とアプローチ ..... 小山隆文 35 (2015)
  1. 治療効果と副作用の二律背反：有効性と忍容性のはざま 2. “見える副作用”と“見えにくい副作用”のあいだで 3. 副作用は“臓器の声”である：臓器別での副作用のメカニズム 4. 新規薬剤の副作用：分子標的薬と免疫療法の時代に求められる視点 5. 治療が終わっても終わらない“副作用”：サバイバーシップの視点から 6. 副作用マネジメントの未来：予測医療から共存医療へ
4. 日常生活の注意点（栄養管理と運動療法）・化学療法中に気をつけるべきこと ..... 紺谷大貴 41 (2021)
  1. 進行がん患者における栄養管理 2. 進行がん患者における運動療法
  3. 日常生活に関しての指導 ● Advanced Lecture：がん悪液質

## 第2章 がん患者の症状への対応

### 1. 抗がん剤の過敏性反応への対応

- I型アレルギーとインフュージョンリアクション ……大山 優 48 (2028)
1. 抗がん剤の過敏性反応 2. 治療 3. 予防 4. 過敏性反応を生ずる代表的な薬剤と対処法  
● Advanced Lecture: カルボプラチン（プラチナ系抗がん剤）の脱感作療法手順

### 2. 発熱 ……瀬口京介 56 (2036)

1. 感染症による発熱 2. がん治療に関連する発熱 3. 腫瘍熱

### 3. 疼痛 ……大衡竜太 62 (2042)

1. 身体的苦痛: 1. がん性疼痛 2. 非がん性疼痛  
2. 実際の診療の流れ: 1. 評価 2. 治療  
3. 心理・社会的苦痛, スピリチュアルペイン  
● Advanced Lecture

### 4. がん患者の呼吸困難 ……大場俊輝 70 (2050)

1. 呼吸困難の定義・病態生理 2. 呼吸困難の診断 3. 呼吸困難の原因 4. 呼吸困難の治療

### 5. 消化器症状（悪心・嘔吐，下痢） ……紺谷大貴 79 (2059)

1. 化学療法による悪心・嘔吐 2. 化学療法による下痢

### 6. 意識障害 ……瀬口京介 90 (2070)

1. 病歴からの鑑別 2. 意識障害の鑑別はまずバイタルサイン，神経学的所見，皮膚所見を確認

### 7. 倦怠感（動けない） ……大衡竜太 97 (2077)

1. 倦怠感の分類 2. 鑑別，スクリーニングの実際 3. 鑑別すべき疾患と治療  
● Advanced Lecture

### 8. がん治療医が考える皮膚障害 ……小口億人 105 (2085)

1. 皮膚障害 2. その他の皮膚障害 3. 皮膚障害の対応に関して  
● Advanced Lecture: インフュージョンリアクション

## 第3章 救急・病棟の急変対応と入院患者管理

### 1. 脳転移・がん性髄膜炎 ……渡邊修貴 111 (2091)

1. 転移性脳腫瘍 2. がん性髄膜炎（がんの髄膜播種）

### 2. 悪性腫瘍による脊髄圧迫 ……横溝加奈子 120 (2100)

1. MSCCの診断: 1. 疫学 2. 病態生理, 症状 3. 評価  
2. MSCCの治療: 1. 予後予測 2. 治療方法

### 3. 気道閉塞 ……青木聖子 128 (2108)

1. 疫学 2. 診断 3. 治療

<b>4. 上大静脈症候群</b> .....	大場俊輝	136	(2116)
1. 疫学 2. 診断 3. 治療			
<b>5. 電解質異常（高カルシウム血症）</b> .....	宮地康僚	143	(2123)
1. 疫学 2. 症状 3. 病態 4. 診断 5. 治療			
<b>6. 腫瘍崩壊症候群</b> .....	瀬口京介	150	(2130)
1. TLSの病態生理と臨床症状 2. TLSの定義と分類 3. TLSのリスク分類と層別化 4. TLSの予防 5. TLSの具体的な管理方法 ● Advanced Lecture：尿酸低下薬の選択について			
<b>7. 抗がん剤治療に関連した感染症マネジメント</b> .....	佐田竜一	158	(2138)
1. 悪性腫瘍患者に合併した感染症：総論 2. 抗がん剤治療による感染症：総論 3. 抗がん剤治療による感染症：各論（発熱性好中球減少症）			
<b>8. 深部静脈血栓症／肺塞栓症（DVT/PE）</b> .....	銘苅康太郎	172	(2152)
1. 疫学 2. 病態 3. 臨床的徴候，身体所見，診断 4. 治療 5. 治療期間および再発予防・予防投与について ● Advanced Lecture：がん関連凝固亢進と血栓症			
<b>9. Trousseau 症候群</b> .....	木村恵理	181	(2161)
1. Trousseau 症候群とは 2. Trousseau 症候群の疫学 3. 病態生理 4. 診断 5. 治療			
<b>10. 血栓性微小血管症（TMA）／播種性血管内凝固症候群（DIC）</b> .....	銘苅康太郎	188	(2168)
1. 疫学 2. 病因 3. 症状，身体所見，検査所見，診断 4. 治療			
<b>11. 免疫チェックポイント阻害薬の副作用管理</b> .....	小口億人	200	(2180)
1. がん免疫療法について 2. 免疫チェックポイント阻害薬の副作用管理 ● Advanced Lecture：ICANS			
<b>12. 間質性肺炎</b> 非呼吸器専門医ががん診療を行う際に知ってもらいたい間質性肺炎の基本 .....	伊藤博之	207	(2187)
1. 間質性肺炎とはどんな疾患なのか？ 2. 抗がん剤治療を行う前に間質性肺炎がないか確認する 3. 間質性肺炎患者の抗がん剤治療はどうすればいいか？ 4. 投与開始後はどのように診ていくか 5. 薬剤性肺炎発症時はどうする？			
<b>13. がんによる消化管閉塞／胆道閉塞／尿路閉塞</b> .....	板垣奈恵，仲地健一郎，船登智將	214	(2194)
1. 悪性消化管閉塞：1. 診断 2. 管理／治療 2. 悪性胆道閉塞：1. 診断 2. 管理／治療 3. 悪性尿路閉塞：1. 診断 2. 管理／治療			
<b>14. 胸水／腹水／心嚢水</b> .....	紺谷大貴	222	(2202)
1. がん患者における胸水貯留 2. がん患者における腹水貯留 3. 心嚢水			

## 第4章 緩和ケアと終末期の対応

---

1. オピオイドの使い方……………大塚友貴 229 (2209)  
1. オピオイドを使用するタイミング 2. それぞれのオピオイドの特徴と使い分け 3. 鎮痛の目標、用量設定 4. オピオイドの副作用と対策 ● Advanced Lecture
2. がん疼痛に対する緩和ケア ……大竹健人 236 (2216)  
1. 痛みの分類を知ろう：1. 病態による痛みの分類 2. 原因による痛みの分類 3. 痛みのパターンによる分類  
2. 痛みの評価をしよう：1. 問診 2. 診察・検査 3. 多職種との協働  
3. 痛みの治療の概要：1. 痛みの治療の選択肢 2. 痛みの治療の目標 3. 専門家へのコンサルテーションが必要なとき
3. がん患者にかかわる医師が知っておきたい難治性疼痛の症状緩和  
……………森崎貴博 244 (2224)  
1. 難治性疼痛のメカニズムとその評価 2. 難治性疼痛の対応方法
4. 終末期の対応 ……竹下隼人 249 (2229)  
1. 予後予測とそのツール 2. 終末期のコミュニケーション 3. 看取りの際の立ちふるまい

## 第5章 患者・家族とのコミュニケーション

---

1. 患者・家族への寄り添い方, AYA世代も含め ……宮地康僚 254 (2234)  
1. がんを生きるという体験 ― がんサバイバーシップ 2. 質の高いがん医療とは  
3. コミュニケーションスキル
2. がんの悪い知らせの伝え方と意思決定, 治療拒否患者への対応  
……………宮地康僚 261 (2241)  
1. がん診療における悪い知らせ 2. 悪い知らせのコミュニケーション・スキル  
3. Shared Decision Makingを目指して 4. 治療を拒否する患者への対応

- 索引…………… 272 (2252)